

浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺
住職 大塚靈閑

〒671-0101

兵庫県姫路市大塩町229

Tel 079-254-0351

Fax 079-254-4142

西光 第182号

令和2年4月11日発行

コロナウイルス禍の一日も早い終息を願いつつ
朝の来ない夜はない

靈閑だより

気になる・・・

「浄める」ということ

枕経における湯灌と僧侶の修行は同じ!?

お経界のボス

『大般若経』に初対面

お知らせ

朝の来ない夜はない

コロナウイルス禍の一日も早い終息を願いつつ

今から百年前に世界的大流行したスペイン風邪は世界人口の二十七%にあたる五億人の人が感染したといえます。西光寺の先々々代の第十七世靈道上人もスペイン風邪により四十一歳の若さで亡くなっています。近年頻発する天災は目に見える恐怖を我々に与えてきましたが、この度の新型コロナウイルスの猛威は目に見えない恐怖を我々に与えています。

お釈迦様は苦しみからどうすれば逃れることができるのか、その方法を示してください。その一つに八正道はつしょうどうというものがあります。読んで字のごとく八つの正しい道です。その中に「正見」しょうけん「正思惟」しょうしゆい「正語」しょうご「正業」しょうごうがあります。簡単に言えば、正しく見、正しく考え、正しい言葉を使い、正しい行いをするということです。文字づらだけを見ると子供でも分かる簡単な言葉です。しかし、そうと分かっていながら、まるで正反対の行動を私達は

してしまっています。このような初めて経験する事態に直面した時、何が「正しい」ことなのかが分からなくなってしまう。

今までの地震や台風、大雪などの天災とこの度のコロナウイルスとの根本的な違いは自分も当事者であるということだと思えます。支援活動だ絆だなどと言っている余裕がなくなってしまう。なんでもない日常がなんと有難いことであつたか。辛抱、堪忍の日々はまだまだ続きそうです。いつか夜が明け朝が来ることを願いつつ・・・

合掌

釈尊は「一切は苦である」と説かれた。

一切が苦であるということは、逃れることが出来ないということ。苦に向き合わなくてはならない時、泣いてもいい、呻いてもいい。苦を受け止めなくてはならない時、怒っても、塞ぎ込んでもいい。しかし苦しむ時間を無駄にしてはならない。それが人生を大切にするということ。

今月のみかえり「忍終不悔」にんじゆうふけ一言法話より抜粋

靈閑だより

ある面接風景です。面接官が仕事内容を伝えます。この職業は一体何でしょう。

簡単な仕事ではありません。とても重要な仕事です。

・役職は現場総監督です。しかし役職は流動的で、仕事上の責任は非常に広範囲です。

・さらにほぼ全ての時間、立ち作業と屈んだ姿勢で作業するため、とても体力を必要とします。

・仕事時間は基本的に週七日、毎日二十四時間。休憩時間はありません。

・この職位には交渉力と交際力が求められ、医学・金融学・栄養学などにも通じている必要があります。複数の役職を兼任することが求められます。

・常に周りに注意を払い、時には徹夜もあります。

・プライベートな時間は諦めてもらいます。事實上、休みなしです。クリスマス、感謝祭、お正月などは仕事量がもっと増えます。

・この役職で得られる給料は〇円です。ボランティアのような感じで、完全無給です。

・ちなみに今この職についている人は十億人ほどいます。

もうお分かりでしょう。正解は「母親」です。これはグリーティングカードなど文房具を販売するアメリカの Cardsort が制作した映像の様子です。映像の最後には、母の日に手紙で感謝を届けましょうと一言。実によくできています。

一般社団法人 日本記念日協会なる組織があるようです。記念日文化の発展を願い設立されたとはなんとも微笑ましい団体です。企業や団体に限らず個人でも「〇月〇日を〇〇の日としたい!」と記念日の申請ができるそうです。いろいろ審査があり、費用もかかりますが。それにしても日本人は語呂合わせが好きです。八月六日はハムの日、八月七日は花の日・鼻の日、八月八日は葉っぱの日、八月九日はハグの日・・・三百六十五日毎日〇〇の日があります。

家族に関する記念日について調べてみると一通りありました。

誰でも知っているのは、

- ・五月五日 こどもの日。
 - ・五月第二日曜 母の日。
 - ・六月第三日曜 父の日。
 - ・九月第三日曜 敬老の日。
- 少し知名度は落ちますが、

・十一月二十二日はいい夫婦の日。不覚にも私、この日に入籍しました(笑)

ほとんど誰も知らないのは

- ・一月三十一日 愛妻家の日(1をアルファベットのI(アイ)と読む)
- ・七月第日曜 親子の日。
- ・十月第三日曜 孫の日等々。

中でも、もうすぐやってくる母の日はその経済効果は千億円以上ともいわれ、その市場規模は年々増加しているようです。

母の日^{えいご}回向という法要を聞いたことがあります。供養する対象が母親に特化しているというものです。母が今は亡き人になっても気持ちが届けることができます。仏壇に、お墓にお参りすることはできません。この度のコロナウイルスの影響で、家族と家で過ごす時間が増えた方も多いのではないのでしょうか。来たる母の日、父の日に仏壇に、手を合わせてみるというのもいいかもしれません。おじいちゃん、おばあちゃんのおい出を子や孫に話してあげてください。

そして母の日以外にもお参りをすべき日があります。それは自分自身の誕生日です。

諸人よ 思い知れかし

己が身の誕生の日は 母受難の日



気になる・・・



「浄める」きよめるということ

枕経における湯灌と僧侶の修行は同じ!?

人は亡くなると、まず湯灌ゆかんという儀式が待ち受けています。

人生の最後に文字通りお風呂に入れてあげることなのですが、これめちゃくちゃした儀式の一つなのです。沐浴もくよくともいいます。

沐浴というインドのガンジス河での朝の風景が思い浮かびますが、身を浄めるといふ点では同じことです。沐浴もくよく偈ぎという湯灌の際に唱える短いお経もあります。今ではこの湯灌に僧侶が立ち会うことはないのですが、本来であれば、それを唱えなが

ら行わねばなりません。次ページに参考までに記しておきます。もし湯灌に立ち会うことがあれば心の中で唱えてみて下さい。

訃報の連絡を受けて、すぐにお宅に行き故人の枕元まくらもとであげさせて頂くお勤めを枕経まくらきよめといいます。この枕経は懺悔ざんげから始まります。懺悔とは、自らが今までの人生で犯してきた数多くの罪深いことを仏さま、そして皆の前で洗いざらい告白して、許

しを請い、仏の道に進むことを誓うことで
す。本人は亡くなっているわけですから自
分の口で言うことができません。代わりに
僧侶が枕元でその懺悔のお経を読ませて頂
きます。

人は亡くなると、阿弥陀仏がお迎えに来
られます。浄らかな仏さまの国に往くので
すから、その前に文字通り身も心もきれい
にしなければなりません。

【沐浴偈】

沐浴もくよくしんたい身体

当願とうがんしゅじょう衆生

内外ないげこうけつ香潔

身心しんじんむく無垢

身体を沐浴する時は、

心の内も外も

煩惱やけがれがなく、

清らかであらんことを

願おうではないか

私達人間は一日生きるだけでも数多くの
命を食事として頂きます。そして法律に触
れる罪は犯さなくとも、日々嘘をつき、悪
口を言い、他人を傷つけるような罪深いこ
とを数多く犯しています。それらの罪を湯
灌、懺悔という形で洗い流し、身体の内も
外も、つまり身も心も浄らかなになって、よ
うやくお浄土という仏さまの浄らかな国へ
往く準備ができるわけです。

我が宗派では僧侶になる際、老若男女す
べての人は加行けぎょうという修行をする必要があ
ります。その修行の中で水をかぶる水行すいきぎょうと
よばれるものがあります。これも湯灌と同
じ意味があります。似て非なる点があると
すれば、湯灌は水が心地の良い適温に整え
られますが、水行は寒風吹きすさぶ屋外に
て、フンドシ一丁の姿で無慈悲なまでに冷
え切った水をかぶるといふ点です。行者が
この水をかぶる際にも先の沐浴偈を唱えて
からかぶります。四時、十時、十五時と一
日に三度本山の全お堂を回りお勤めをして
いくのですが、そのお勤めに出る前に水を

かぶって行くのです。清浄なるお堂に行
き、仏さまの前でお経をあげさせて頂くわ
けですから、その当人が身も心も浄らかに
してから行く必要があります。気合いを入
れるために水をかぶっているわけではあり
ません。ただ寒いために、沐浴偈をあげる
声は大きくなり、自然と気合いが入り、
「よっしゃー気張っていいこーぜ」と体育会
系的な行相を呈するのは事実です。

どうぞ皆さまお風呂に入る際には、上記
の沐浴偈を唱えながら、かけ湯をしてみま
しょう。気持ちだけでも心浄らかなになるか
もしれません。

お経界のボス

『大般若経』 に初対面

五百万字！ 六百巻！

大般若経。正式名、大般若波羅蜜多経。お釈迦様の説かれたお経の中でも最も長いお経です。ご存じ般若心経と名前が似ていますが、般若心経が二百六十字程度の分量なのに対して、大般若経は五百万字、六百巻もあります。般若心経が二、三分で読めるのに対し、大般若経は一日一冊読んでも一年半かかります。

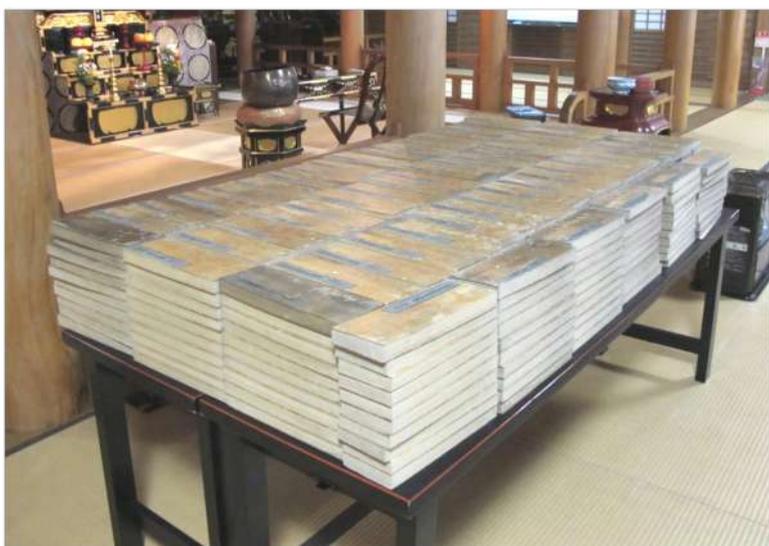
この大般若経は西遊記の主人公の三蔵法師のモデルとなった唐の玄奘三蔵が最晩年四年余りの年月をかけて訳したものです。この大般若経が実は西光寺にもあるのです。なぜ三年前の寺宝展をした際に出さなかったのかは、単にめんどくさかったからだと思います。しかし、私も見たことなかった大般若経を、この度一念発起して、物のなかつた大般若経を、この度一念発起して、物の入の奥底から引き出し、一冊ずつ掃除・虫干しをしました。

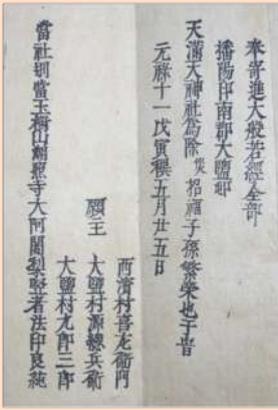
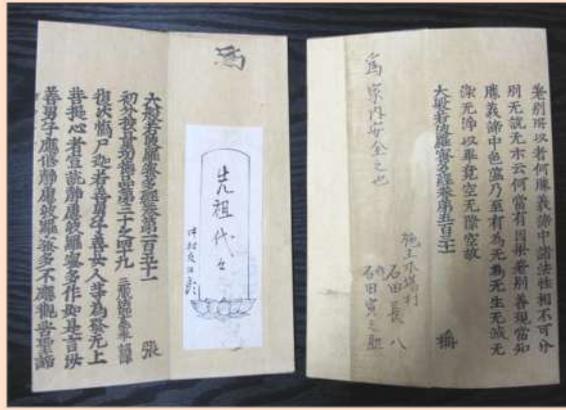
実はこの大般若経は正確には西光寺のものではありません。大塩に昔、潮照寺（天台宗）というお寺が明治までありました。この潮照寺は大塩天満宮を守る神宮寺（宮寺）でしたが、明治時代の神仏分離、廃仏毀釈の流れに屈し、廃寺となりました。かつては神仏習合といわれるように日本古来の神と仏は仲良く共存していましたが、明治になって神仏の分離が進められ、お寺のお堂や仏

像、經典などを破壊していくという極端な動きにまで発展することもありました。そこで当時の西光寺の住職第十六世成空靈準上人は天満宮に冥加金を納め、潮照寺の本堂とその寺宝を買い受けました。今は墓地となっていますが、西光寺の本堂の南側に昔建っていた薬師堂がまさに潮照寺のお堂です。そして潮照寺の寺宝の中の一つがこの大般若経です。

冥加金を納めるにあたり、檀家をはじめ町内外に広く寄附を募りました。六百冊のお経一冊一冊に皆さまのご先祖の施主の名前が記され、先祖供養の為や〇〇家内安全の為などの願いが記されています。この大般若経を制作するにあたり、本当に多くの町内外の檀信徒、有志の方々のご協力があったことがうかがえます。

西光寺ではこの大般若経を読む法要、大般若転読会を毎年二月二十八日に行っていたようです。転読というのは、経題やお経の初め、中ほど、終わりの数行だけを略読し、あとは経本をパラパラと繰って読んだことにするという手法です。本山の永観堂では毎年一月十五日に、大般若会を行っています。この大般若会は一月〜三月頃に行われることが多く、一年の無病息災や平和を祈願するものです。いずれ西光寺でも再興したいと企んでおりますが、はて実現できるかどうか。





上右…一つ一つ丁寧に掃除をする。果てしなく地味な作業。

上中…経本には施主の名前と〇〇之霊供養の為などの施主の願いが記されている。

上左…元禄十一年五月二十五日、当社別当 玉樹山潮照寺 大阿闍梨 法印良純の代に制作。潮照寺の総代だったであろう三名の名前が願主として記され、天満天神社の除災・招福そして子孫繁栄の為とある。

下右…五十冊×二段〓百冊が一セット。これが六つある。箱の蓋に西光寺第十六世成空靈準上人代の発起人（おそらくお寺の総代）の名前が記載されている。

下左…大般若の法要の際のご本尊の十六善神図。般若十六善神、釈迦十六善神、釈迦三尊十六善神とも言う。正面には釈迦三尊（釈迦如来、文殊菩薩、普賢菩薩）が描かれることが多い。十六善神は四

天王と十二神将を合わせた十六名の般若経を守る夜叉神とされる護法善神。絵には四天王と十二神将の他にも般若経に縁の深い菩薩や他の神、玄奘三蔵などが登場する場合もある。

神社に付属する寺 = 神宮寺 ※寺に付属する神社 = 鎮守社
 神宮寺で働く僧侶 = 社僧、別当（神前でお経を読み祈祷を行う）

今でこそ寺と神社、仏と神は相容れないもののように思いますが、明治まではそれが普通でした。お寺の中に鳥居があってもおかしくないわけです。潮照寺から譲り受けた寺宝の中にはご神体の鏡もあります。



五月九日(土)

はなまつりコンサート
中止のご案内

以前よりお知らせしておりました五月九日の
はなまつりコンサートは、世情を鑑みて中止と
させていただきます。

はなまつりはお釈迦様の誕生を祝する行事
で、この度はパンフルートという縦笛とピアノ
によるコンサートを予定しておりました。春の
お彼岸法要に引き続き中止せざるを得ない事態
は大変残念ではございますが、今は一日も早い
終息をただただ願うばかりです。

平穏な日常生活が戻り、気持ちよく楽しめる
日が来れば、また企画したいと思えます。

尚、五月八日(金)には例年通り、本堂前の
参道に花御堂を設け、お釈迦様に甘茶をかけて
頂けるようには致します。お飲み頂く用の甘茶
も用意しておりますので、お墓
参りがてらお寄りください。



【西光寺役員の去就】

【退任】中ノ丁世話人 湯谷豊和さん

中ノ丁の世話人を長年お勤め頂きました
湯谷豊和さんが昨年いっばいでご勇退されま
した。昭和55年から約40年間、西光寺のあ
りとあらゆる事業や行事を見届け、当山の護
持運営にご尽力頂きました。お寺の生き字引
のような存在でしたので、甚だ惜しいことでは
あります。二代に渡って大変お世話になり
ました。湯谷さんの今までの功績に心より御
礼を申し上げます。

【ご逝去の報】

生前の温顔を偲びつつ、お十念を捧げます。

西ノ丁	黒川健次郎さん(95歳)	11月21日没
明石	秦野房子さん(90歳)	11月24日没
飾磨	尼野勝廣さん(77歳)	12月17日没
佐土新	梶原貢さん(89歳)	12月21日没
西ノ丁	水野明夫さん(86歳)	12月28日没
大阪	梶原昇さん(69歳)	1月17日没
大阪	梶原茂樹さん(81歳)	1月18日没
宮本丁	本庄一男さん(87歳)	1月30日没
西ノ丁	白矢繁一さん(102歳)	1月31日没
白浜	植木美知子さん(92歳)	3月19日没

寺子屋



今後の寺子屋につきましては、四・五月は
三月に引き続き中止、六月以降については
状況をみながら決めたいと思います。ご理
解の程宜しくお願い致します。

門前掲示板より

十二月
笑顔に勝る化粧なし

一月

水はつかめません 水はすくうものです
心もつかめません 心は汲みとるものです

二月

生きているという事は
誰かに借りをつくること
生きていくということ
その借りを返していくこと

誰かに借りたら

誰かに返そう(永六輔)

三月

一生の終わりに残るものは
我々が集めたものではなく
我々が与えたものです (渡辺和子)

四月

朝の来ない夜はない
コロナウィルス禍 一日も早い終息を願います 合掌

